

リアルな中国 知って考えた

元サッカー日本代表監督
岡田 武史さん

異才面談 ②

中国での監督生活は失脚
諸島をめぐる日中の対立と重なり、反日デモもありました。

「身の危険なんて感じたことはない。アウェーの試合で『はかやろう』と一度、言われたくらいだね。街では、サインや写真の撮影を求められたり、『頑張れ！』と声をかけられたりした。デモで日本車を壊し、日系スーパーを襲ったのは、一部の中国人だよ」

「ほくは、どんな問題があっても自分の子どもを戦場に送りたくない。中国の親だとして、同じだよ。答えは簡単だ。話し合いしかない。国と国、文化と文化がぶつかれば、接点をさぐるしかない。政治家は分かっているはずだけど、引くに引けない。日本だったら支持率が下がると、中国なら政変がおきる。結局、国民自身が大事なものは何かを考へるしかない。サッカーの選手が監督の指示を待たず、自分で考へなければならぬのと同じだ」

「ただだね、こんな風に話すと、あいつ、どうしちやっただ、国を売ったのか、と言われかねない危険な空気があるよね、いまの日本には」

互いの誇りを尊重

— 空気、ですか。

「口を開けなくなる空気だよ。草の根で多くの人が感じていても、世の中のムードと違ってくることを言えな。これも危うい」

口開けない日本の空気危うい



③インタビューに答える岡田さん＝2013年12月17日、町川秀人氏撮影④監督を務めた杭州绿城の選手たちに、練習で指示を飛ばす岡田さん＝12年3月、潮智史撮影、いずれも浙江省杭州市



おかだ・たけし 1956年生まれ。早稲田大、古河電工でプレー。24試合の日本代表歴。監督としてW杯に98年初出場、2010年16強入り。12、13年と中国・杭州绿城（浙江省）の監督を務めた。

「誇りを持って戦いましたよ。でもね、相手もすべてをかけて戦っていることは尊重している。ナショナルチームは自分たちだけのものじゃない。どちらをも愛する気持ちを持っていることを理解しないとね」

「1年目は16チーム中の11位、2年目は12位。率直に言って、成績はイマイチ。でも、引退会見の雰囲気も、日本の悪口が渦巻くインターネットでも、岡田さんへの温かい言葉が目立ちました。意外です。」

自立と規律を強調

「日本で批判されるのは慣れているから、中国でもそうだろうと思っていたら違った。やろうとしたことは認めてくれたんだな、とうれしかった」

「中国でも特別なことはしていない。自立と規律を強調した。中国人はルールだから厳しく管理しなきゃだめだ、と言われたが、むしろ選手の宿舎の門限をなくした。個々の規律を尊重したうえで、それでも規律を二度破った選手はクビにした」

「思いついたのは、2年目の夏。経営陣と関係が深く、中心選手なのにチームの和を乱すような発言をしたり、成長しようとする若手を抑え込んだりしていたベテラン選手を外したときだ。残りの選手の表情が変わった。内心すごく喜んだのが分かった。その試合は自分たちより強いはずの相手に勝ち、選手たちはロケットチームで大喜びで抱き合っていた。いつもは勝っても負けても試合後はさっさと帰っていたのに、チームとしてようやくくじまってきたか、とうれしかった」

「日本から来たコーチが『だめだなあ、こいつ』』と言ったことがある。ほくもべちが出ることはある。でも、そのひとこと

を発するな、と。日本の選手と違うかもしれないけれど、自分が指導者としてだめだと言っているようなものだ」

「でも、歴史も習慣も違っていて、苦労したのでは。『もちろん、変えられないものもある。たとえば、中国のサッカーにはオープンな移籍の市場がない。贈り物をしたりお酒を飲んだりして有力者と関係を築いて、チームをクビになっても次のチームに移れるように備える。所属チームへの忠誠心が低い。こんなことを言われたこともある。監督の言うことはわかる。でも、その通りにやっても少くばらい上手にやっても、クビになったとき、監督は次のチームをみつめてくれないでしょう。そしたら、月給数千円（数万円）の建設作業員をやるしかないかもしれないんだ、と」

「中国は日本のサッカーに対しては、尊敬の気持ちをもってくれている。中国の人は、日本は嫌いだけど、あなたは好きとか日本人は嫌いじゃないとか言うよね。日本人も、漠然とした中国を好き嫌いよりも、リアルな中国を知って好きになる人がいれば、考え方に幅が広がると思うよ」

「中国からはいま、若手の育成に力を貸してほしいと言われている。Jリーグと提携したり、指導者を日本で研修したりすることを手伝うつもりだ」

「大化を急ぐ中国とこれから向き合う日本の若者は大丈夫でしょうか。「内向き」が心配されています。」

「ほんとうにそうかな。サッカーでいえば違う。中国はもちろん、タイ、ルーマニア、ブルガリア、ウクライナ、インドなどのチームでがんばっている若者に出会うよ。Jリーグに入れば、裸一貫で飛び出した選手もいた。たくましいよ。われわれの世代とは違う感性がある。若いヤツを内向きだなんて言っている年寄りは、じやまをしないように早く退いた方がいいね」

「日本が最悪といわれているのに、サッカーの交流はちも世界で評価されているものが大好きだからだ。iPhoneは言うまでもなく、自動車や鉄道の部品から村上春樹、アニメ——。中国でも播るきない人気を得ているものは、どれも世界で競争力がある。「ジャパン・アズ・アランパーワン」の幻影を忘れられない世代がまだ仕切られる日本と、急拡大したばかりの味の経済力に酔う中国。互いの認識の溝はさうそう埋まらない。でも、第三者の見立ては互いに気になる。競い合えば、国際舞台にある。スポーツもモノもヒトも、そして世論も。」

国際舞台で競い合おう



編集委員・吉岡桂子

杭州绿城の練習場の食堂でお会いした。岡田さんを見つけた若い選手たちが、にこにこあいさつに来る。中国のネットには「中国代表の監督に」とまで書きまわっている。ご本人の魅力が最大の理由だが、日本のサッカーが国際競争力を持ってきた証しともいえる。中国の人た